

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

災害と税金

芦北町立田浦中学校

一年 黄木 虹心

私は令和二年七月豪雨を経験しました。この豪雨では、死者六十五人、行方不明者二人、重軽傷者五十一人という河川の氾濫等による人的被害に加え、堤防決壊や浸水被害、家屋倒壊、道路損壊、橋梁の流出など多数の被害が発生しました。このような被害の中、自衛隊や市・町の消防団の方々が救助に向かったり、地域の人を助けたりしてくれていました。他にもすぐに避難所を開設したり、その後も災害時だとしても避難民が安心して住ごせるように缶詰や飲料水、インスタント麺などの食料を配ったりするなど市町村がみんなの生活を支えているのをテレビで見っていました。

そして私は社会の授業で税金について学びました。その授業を通して自衛隊派遣や配られ食料などが税で支えられているということを知り、私ももつと災害時の税の働きについて知りたいと思うようになりました。そして調べてみると、被災者の生活再建の支援として経済的な負担を軽減するため、町税等の減免措置を実施するとともに、災害見舞金などを支給し、県内外から寄せられた義援については、被災の状況にあわせて配分されました。この他にも、町税などはコンビニエンスストアでの納入を可能にし、町外への避難者を含め、町民の利便性の向上が図られました。

また、住宅が全壊または大規模半壊、半壊で住むことが出来なくなってしまう世帯の方の応急的な住まいを確保するため、県により仮設住宅の建設が行われ、町では、町営住宅や御立岬公園の宿泊施設に避難者を受け入れて、早急に住まいの確保に取り組みされました。このように、災害後も税を使って様々な支援がされてきました。今後も、町民が元の生活に戻れるように支援が続けられると思います。

災害発生からこれまでの間に、被災した住宅や病院、学校などの施設は元通りに改修されました。また、各地に復興住宅が建てられていて、家をなくしてしまった人たちの住まいを確保され、安心して生活が送れるようになっていきます。

更に、河川においても、二度と同じような災害が起らないように、大規模な改修が続けられています。

このように、災害が起こった際に、元の生活に戻すためには、たくさんのお金が必要になります。そのお金はほとんどが税金が使われています。だから、みんな一人一人がしっかりと決められた税金を納めることがとても大切だと私は思います。

今回、税金について学ぶことにより、これまでよりも税金の大切さを知ることができました。これからも税金に感心を持ち、生活していきたいです。